

平成 30 年 6 月

学校関係者評価報告書

学校法人 名古屋大原学園
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校
学校関係者評価委員会

平成 30 年 3 月に実施された自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下 10 項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

1. 教育理念・目標

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

平成 29 年度は、前年度課題とされた「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の改善のため、入学直後に「新入生保護者ガイダンス」を実施した。今後は参加者のさらなる増加に努める。

【今後の改善方策】

今後は「新入生保護者ガイダンス」に全ての保護者が参加するよう、学校説明会など入学前の早い時期から告知を行うこととする。

【関係者評価】

学校の理念等の保護者への周知については、新入生の保護者オリエンテーション及び保護者対象の就職ガイダンスに多くの保護者が参加されたとのことであり、教育理念や教育目標が保護者にも浸透しているものと評価できる。今後もより多くの保護者の参加を促す工夫を継続していただきたい。

ホテル・ブライダル科では英語による料飲サービストレーニングに取り組み、業界紙に取り上げられたことを承知している。学生をいかにして高いレベルへ導いているのか確認したところ、責任教職員より、1 年次夏のインターンシップ前に学内の実習室において、英会話を交えた接客技術を磨くため、水の提供、注文受け、料理の提供をロールプレイング形式で実践的に実施していると説明があった。業界ニーズを踏まえた前向きな取り組みとして評価する。

2. 学校運営

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか」の項目で「やや不適切」との意見があった。

これは、運用上は問題がないが、現金出納書類上の表記が実情に合わせて変更されていないとの指摘である。

【今後の改善方策】

平成30年度は、運用上特に支障が無い場合であっても、現金出納書類の表記等を実情に則した内容に修正していくものとする。

【関係者評価】

平成28年度に比べ平成29年度は自己評価の数値が向上している。これについて責任教職員より、月1回の職員会議において担当クラスの学生一人一人の欠席や学習状況、就職活動の進展などの細かな情報を各教員が報告し共有していること。また、実習や学内イベントを担当教員任せにせず学校全体で運営することにより必然的に教員間のコミュニケーションが増加したこと。その結果、あらゆる情報の共有が進み、教員が同じ方向性を持って学校運営を行えていることが数値向上の原因であろうと説明があった。

全ての組織においてコミュニケーションの向上はチームワークを良くし、成果に結びつくものである。教員間のコミュニケーション向上を今後も継続し、更なる成果を生み出すことを期待している。

3. 教育活動

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」の項目で「やや不適切」との意見があった。

平成28年度においても「やや不適切」との評価があったため、平成29年度は研修への積極的な参加を促し、幅広い視点で業界に関係する講演やセミナーなどに参加することで改善を図ったが、平成29年度も専攻分野の教員研修は不十分であるとの意見があり、引き続き課題として挙げられた。

同時に情報リテラシーについて、オペレーションシステムやビジネスソフト、ビジネスアプリケーションの学習を本人任せにせず、教職員研修の機会を設けるべきではないかとの意見が挙がった。

【今後の改善方策】

「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」について、平成30年度は専攻分野における教員研修に関し、各教員が研修を受ける月を指定し、年度初頭より指定月に実施される研修の情報収集を行うなど計画的に進めることにより、当該月の担当業務を調整し、確実な研修参加を目指す。

また、観光、宿泊、ブライダル、インバウンドビジネスに関する講演や視察の機会があれば、県外であっても教員に参加を指示し、組織的・計画的なレベルアップを図る。

なお、平成29年度と同様、教職員に対する内部研修は入社年数により段階的に実施する仕組みと、役職別の実施する仕組みを併用し、教職員として総合力アップを図る。情報リテラシーのタブレット端末のビジネスアプリケーション活用について、職員会議で効果的活用方法を相互に紹介し、レベルアップを図る。

【関係者評価】

委員の一人より、ホテル・ブライダル科のメイン資格である「3級レストランサービス技能検定」実技試験の試験官を担当しているが、静岡校の学生は自分も含め試験官の中で高く評価されている。具体的には動きがスムーズで立ち居振る舞いも自然であり、さらに笑顔や言葉遣いも高評価である。なにか特別なトレーニングを行っているのか。」と質問があった。これに対し、責任教職員より「全員合格を目指し、本番より厳しい条件でトレーニングを行っている。本試験での実技は試験官だけが会場にいる状況であるが、トレーニングでは50人程度の観客がいる状態で実技をコンテスト形式で行っている。これにより試験では自信を持ち、落ち着いて受験ができるため、近年は毎年95%前後の合格率を維持できている」との説明があった。

今後もこのトレーニングを継続することにより、高い水準の指導・高い合格率に期待する。

4. 学修成果

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「③退学率の低減が図られているか」、「④卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか」で「やや不適切」との意見があった。

これは、「③退学率の低減が図られているか」については、平成29年度は結果として退学者がいたため、また「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」については、全ての就職先にアンケートを送るか、または電話問い合わせを行うべきではないかとの指摘によるものである。

【今後の改善方策】

学生の極めて個人的な理由による退学の場合、定期的な学生面談の実施だけでは改善できないこともあるため、平成30年度は必要に応じて学校と保護者との連絡機会を増やすことを検討し、退学率の低減を図るものとする。

卒業生の社会的評価の把握については、従来、就職先アンケートを学科に関連する業界の企業や一定規模以上の企業に限定していたが、規模に関わらず、また学科に関連しない業界の企業に対してもアンケートを送付し評価の把握に努める。

また、卒業生に対し、企業PRのための来校や講演会などの機会を作る。これにより卒業生との接触機会の増加を図り、企業側にもメリットのある形で情報収集の機会を設ける。

【関係者評価】

就職率について評価が高いが、具体的にどのような状況か確認したところ、責任教職員より、「平成29年度は卒業年次8月には9割近い内定率であり、就職希望者は卒業までに全員内定し、特に学科関係分野への就職が8割を超えている」との説明があった。

今後も学科における学習が十分活かせる就職をさせて欲しい。

一方で、資格取得率については評価が低い方がいる。しっかり取り組んでいる印象だが、何か問題が出ているのか確認したところ、「試験内容が変更されたブライダル関連の資格合格率が下がったため担当教員が責任を感じ低い評価をしたものと推測する」との説明を受けた。小さな事でも疎かにしない姿勢を評価するとともに今後は更なる合格率向上を期待する。

退学率の低減について「やや不適切」の評価をした教員がいたため状況を確認したところ、「年3、4回時期を決めて、担当教員と学生の面談を実施することにより、以前と比較すると改善は図れている。平成29年度は退学者が出たが、その理由は極めて個人的なものであったため、学校が関与し難い状況であった。このような場合は学校だけでは対処できず、学生の様子を見ながら保護者と連絡を取り合い、学校と保護者が協力して退学を防止する取り組みを始めている。全てのケースで効果があるとは言えないが、今後もきめ細やかな対応を心掛けたい」との説明があった。

学校が関与し難い理由による退学は、なかなか対応も難しいものと思われるが、保護者との連携など改善策を既に講じているようなので、今後も継続して努力していただきたい。

5. 学生支援

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」の項目で「やや不適切」との意見があった。

平成28年度は教職員のメンタルヘルスマネジメント検定取得により、学生のメンタル不調への気付きには着手できた。平成29年度は「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」に関し、保健室使用时、容体急変に対応するインターホンや緊急ブザーなどの設備が無いこと、さらにインフルエンザ流行時の対策として加湿器設置による予防対策が不足しているとの意見があった。

【今後の改善方策】

緊急時連絡用ブザーについては同地区の2校に提案し、改善を図りたい。加湿器設置による予防対策については、当面の間、努力目標とする。

【関係者評価】

全員が「適切」と評価した「就職に対する支援体制」について、責任教職員より、多くの就職情報・求人情報が随時学生に提供され、応募の可・不可等の情報も含め、各教室で分かりやすくファイルし、管理している。また、就職活動が停滞しないように担当教員と就職サポート室が連携し丁寧な指導を行っているとの報告を受けた。就職支援が適切に行われていることが高い就職率につながっているものと評価できる。

さらに、在学生に対する就職支援だけではなく、卒業生への支援について確認したところ、卒業後に資格取得を希望する者に受講料の割引制度が用意されており、業務上必要となった資格の取得や自己啓発のための資格取得を支援する体制が整っているとの説明があった。さまざまな視点から教育を施している専門学校として納得できる支援である。

6. 教育環境

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」「③防災に対する体制は整備されているか」の項目で「やや不適切」との意見があった。

②については、国際ビジネス科において海外研修の実施により学科の魅力を増進させる必要があるとの意見があった。さらにホテル・ブライダル科の現在の実習設備に加え、ドレスフィッティングやパウダールームなどがあると、より実務に即した実践的な教育効果が期待できるのではないかと意見も挙げられた。

③については、在校生全員の避難訓練を実施すべきではないかとの指摘によるものである。

【今後の改善方策】

国際ビジネス科の海外研修実施により学科の魅力を増進させる必要があるとの意見に関し、平成30年度より国際ビジネス科の希望者を留学斡旋企業に依頼し、短期留学させることを浜松校と合同で検討している。まずはこれにより学科の魅力増進を図りたい。ホテル・ブライダル科の実習施設の整備については、現在のドレス保管室兼メイク・ネイル実習室にフィッティングスペースやメイクボックスの設置を検討する。

在校生全員の避難訓練を実施すべきとの意見に関しては、平成30年9月下旬に地震発生を想定したクラス単位の避難訓練を実施することで改善を図る所存である。

【関係者評価】

学内外の実習施設や海外研修等について評価が下がっている理由は何か確認したところ、「ホテル・ブライダル科は実習施設の老朽化もあって、施設改修の必要性が高まっている。これに対応するため、まずはドレスフィッティングに必要な簡易更衣室やメイク用ドレッサー設置を予定している。国際ビジネス科については海外研修を実施していないが、1年次11月に短期留学を可能とする仕組みやカリキュラム検討を行っている」との説明を受けた。

施設改修や設備設置は結果的に学生の学習意欲増加につながり、さらに若年者の海外体験は貴重な体験となるため、前向きに取り組んでほしい。

防災について「やや不適切」の回答があったことについて確認したところ、学校全体で一斉に行う防災訓練を近年実施していないためこのような評価となった。その改善策として、平成30年9月に実施予定である」との報告を受けた。

地元自治会や行政との連携も視野に手厚い防災対策を希望する。

7. 学生の受入れ募集

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

【今後の改善方策】

学生募集活動は企画広報室を中心に学校案内書の作成・学校説明会での告知等、常に適正な説明・対応を心掛けており、現に適正に行われているものと思われる。また、学納金についても妥当な額である。今後も、提供する情報を常に最新のものとし、入学希望者及び保護者に対し正しい情報提供を行うよう努める。

昨今の少子化及び大学全入時代、高校卒業者の就職環境好転により学生募集は厳しい状況にあるとの認識を持ち、平成30年度はより積極的な募集活動を行うこととする。

【関係者評価】

企画広報室が募集案内、イベント紹介チラシ、DM、参加者へのお礼はがきなど紙媒体のデザインから写真素材の準備を行っているとの報告を受けたが、このように広報素材を内部で全て作成できる教育機関は珍しく、この取り組みが学生募集に効果を持たせているものと評価できる。

さらに校舎内の掲示板を活用した資格や就職の実績情報の掲示による情報発信が募集に大きく貢献し

ていると説明があった。今後も貴校ならではの工夫による学生増加を期待する。

8. 財務

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

【今後の改善方策】

財務内容について、現状これといった問題はなく、会計監査についても適正に行われている。

【関係者評価】

安定した財務状況を続けており、借入金無しとの報告は評価に値する。

9. 法令等の遵守

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

【今後の改善方策】

学園は関係諸法令の遵守に努めており、適正な学校運営がなされている。また、自己点検・自己評価の実施も行っており、その結果を学校ホームページにて公表している。

【関係者評価】

情報セキュリティについて、責任教職員より、個人情報保護のため厳重なセキュリティが必要であるが、同時に情報の効率的な運用も重要となるため、慎重に改善を進めたいと報告があり、個人情報保護に対する慎重な取り組みが確認できた。

個人情報に関しては近年、若年層によるソーシャル・ネットワーク・サービス（以下「SNS」という）のトラブルが取り沙汰されているが貴校学生の状況はどうかと確認したところ、「学生はSNSの扱いに慣れてしまっているため、無自覚に個人情報を伝えてしまう恐れがある。そこに危険が伴うということを教えながら、適切な利用を促していきたい」との説明があった。今まで以上の取り組みを希望する。

10. 社会貢献・地域貢献

【課題】

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

【今後の改善方策】

平成29年度から、地域の福祉協議会が発行するボランティア情報の掲載された広報誌を毎月教室に置き、身近にあるボランティア活動を紹介することにより、学生個人が自発的に取り組むよう啓蒙した。平成30年度も引き続き広報誌による情報提供と教員からの告知により自発的取り組みを促すものとする。

【関係者評価】

実際に取り組んでいるボランティア活動について確認したところ、「ホテル・ブライダル科の学生と担当教員が平成17年度から平成29年度まで13年間継続して『大道芸ワールドカップ in 静岡』のエスコートボランティアを継続している。3日間の事前研修を受け、4日間のイベント期間中2日～3日間、高齢者や障害者の方の見学を車椅子や手引きにより介助している」との説明を受けた。長期間のボランティア活動を評価するとともに、学生たちのボランティア経験を今後の人生に活かせるよう指導してほしい。

学校関係者評価委員会

役職	氏 名	現 職
委員長	森 祐輔	あおい税理士法人 所長
委員長	河西 条司	森トラスト・ホテルズ&リゾート株式会社 ホテルラフォーレ修善寺 管理課課長
委員	佐舗 敬司	株式会社 スギヤマ・コーポレーション 執行役員 人材育成CS推進室 室長
委員	正田 恵造	静鉄観光サービス株式会社 総務部長
委員	首藤 祐希	有限会社首藤商会 マネージング・ディレクター
委員	大橋 涼太	医療法人社団 静産会 理事長
委員	森田 洋正	ナガハシ印刷株式会社 本部長
委員	谷口 幹也	社会保険労務士法人 浜松共済 特定社会保険労務士
委員	神保 登美子	公益社団法人 全日本不動産協会静岡県本部 事務局長